



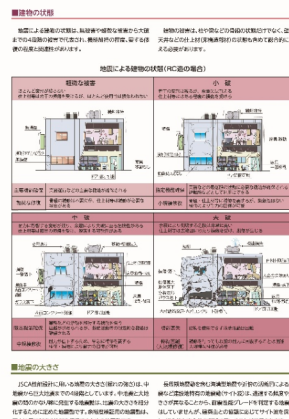
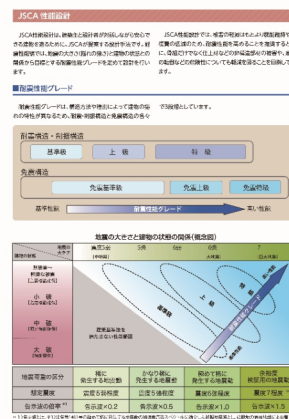
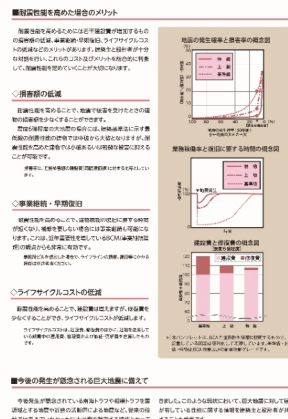
JSCA SEISMIC PERFORMANCE CERTIFICATION

JSCA耐震性能認証制度



JSCA耐震性能認証の必要性

- 大震災の教訓から、建築物は「倒壊を防ぐ」だけでなく「被災後も使い続けられること」が強く求められています。
- JSCAではこれまでも、建築基準法にとどまらず、用途や事業継続性に応じて目標性能を設定する「性能設計」を推進してきました。



J S C A 耐震性能認証の必要性

- 耐震性能は専門性が高く、一般には分かりにくい情報です。
- 耐震性能を、**客観的な指標により評価・表示し**、
建物所有者・利用者・テナント・投資家が**共有できる情報**とするため、

J S C A 耐震性能認証制度

を創設しました。

JSCA耐震性能認証制度とは

- JSCAが、**建築物の耐震性能を客観的に評価する第三者認証制度**です。
- 建築基準法が目的とする「建築物の倒壊等の防止（人命保護）」にとどまらず、**大地震後の事業継続性（BCP）や早期復旧に資する建築物の耐震性能**を、評価・可視化します。
- 上部構造・**基礎**に加え、本認証で定めた範囲の**非構造部材・建築設備**も評価の対象です。

J S C A 耐震性能認証制度とは

上部構造＋基礎

Platinum・Gold・Silver・Bronzeの4段階

評価：大地震・巨大地震に対する

応答値に基づく性能確認

巨大地震はPlatinumとGoldのみ、基礎は除外

評価対象：鉄骨造・鉄筋コンクリート造

・免震構造・基礎構造

評価基準：閾値による

非構造部材・建築設備

☆☆☆ ～ ☆ の3段階

評価：大地震に対する設計配慮

評価対象：あらかじめ定める範囲

評価基準：下記の内容について加点方式

耐震性能の表示

耐震性能の根拠の確認

Definition

JSCA耐震性能認証制度とは

JSCA 耐震性能認証 マーク

直感的に伝わる「信頼の可視化」を目指したデザイン

公共性・視認性を重視し、
一目で認識できる形状

建物と地震波をモチーフに
構成

性能を示す“証”としての象
徴性を付与

安全へと守られるイメージ
を内包



Designed by
「NEW」
合同代表：
山田 十維 (Toi)

グ レー デ ィ ン グ

Grade グレード	Target Seismic Performance 目標性能	Nonstructural Components / Building Equipment 非構造部材・建築設備への配慮
Platinum	大地震後もほぼ無被害で、主要業務を継続可能。 巨大地震に対しても、主要業務を比較的短時間で再開 することを目標とする最高峰のグレード。	☆☆☆ 機能維持 ☆☆ 主要な安全性
Gold	大地震後も主要業務を比較的短時間で再開可能。 巨大地震に対しても、あらかじめ定めた機能を維持し、 建築物内に滞在することを目標とする高いグレード。	☆☆☆ 機能維持 ☆☆ 主要な安全性
Silver	大地震後もあらかじめ定めた機能を維持し、建築物内 に滞在可能。大きな被害を防ぎ、修復を経て中長期的 な継続使用することを目標とするグレード。	☆☆☆ 機能維持 ☆☆ 主要な安全性 ☆ 最低限
Bronze	大地震後は業務機能を失うものの、確実な避難行動や 救助活動を可能にし、人命を確実に守り抜くことを目標 とするグレード。	規定しない

※「巨大地震」は、建築基準法が想定する大地震動の1.25～1.5倍に相当する地震動を指します。

Platinum

目標性能

大地震後もほぼ無被害で、主要業務を継続可能。

巨大地震に対しても、主要業務を比較的短時間で再開することを
目標とする**最高峰のグレード**。

非構造部材・建築設備への配慮

☆☆☆ 機能維持 ☆☆ 主要な安全性



Gold

目標性能

大地震後も主要業務を比較的短時間で再開可能。

巨大地震に対しても、あらかじめ定めた機能を維持し、建築物内に滞在することを目標とする**高いグレード**。

非構造部材・建築設備への配慮

☆☆☆ 機能維持 ☆☆ 主要な安全性



Silver

目標性能

大地震後あらかじめ定めた機能を維持し、建築物内に滞在可能。
大きな被害を防ぎ、修復を経て中長期的に継続使用することを
目標とするグレード。

非構造部材・建築設備への配慮

☆☆☆ 機能維持 ☆☆ 主要な安全性 ☆ 最低限



Bronze

目標性能

大地震後は業務機能を失うものの、確実な避難行動や救助活動を可能にし、人命を確実に守り抜くことを目標とするグレード。

非構造部材・建築設備への配慮

規定しない



導入のメリット

資産価値の可視化

B C P に資する耐震性能

ステークホルダーとの共有

大地震に対する余裕

資 産 価 値 の 可 視 化

- 建築物の**耐震性能**を**見える化**することで、テナント誘致の優位性確保や、ESG投資要件への適合、**適正な資産評価（バリュエーション）**を支援します。

B C P に 資 す る 耐 震 性 能

- **構造躯体**だけでなく、天井落下や設備の損傷等の「**非構造部材・建築設備**」への**配慮**まで評価し、**事業継続の観点も踏まえた耐震性能**を確認できます。

ステークホルダーとの共有

- 厳正な審査を経た「**認証マーク**」により、建築物の**耐震性能を共通の指標**で示し、テナントや投資家、行政などの関係者と分かりやすく**共有**できます。

大地震に対する余裕

- 建築基準法が求める安全性にとどまらず、高いグレード（Gold以上）では、**基準を上回る規模の巨大地震**に対する性能を確認することで、**大地震後の安心と事業継続性**を高めます。

審査プロセス

Process

01

設計方針の確認(事前協議)

建築主と合意した耐震性能目標・設計方針の妥当性を確認します。
設計段階からの事前協議により、評価方針を早期に設定します。



Process

02

技術的評価(審査部会)

2名以上の専門委員が認証申請資料を詳細審査します。構造応答値、
部材損傷度および非構造部材・建築設備の耐震安全性を厳正に検証します。



Process

03

グレード判定

審査部会の報告に基づき、JSCA耐震性能認証委員会において
最終的な耐震性能認証グレードを公正に判定します。



Process

04

認証書の交付

認証書および認証概要書を発行します。取得後は認証マーク掲示や
ウェブ公開を通じた実績の明示が可能です。

完成建物との整合を図るため
完成検査と整合した設計図書
での認証。

テナント誘致などの利用に配慮し、
確認申請審査後の認証も可能。

評価対象

新築建物・2014年4月以降に建築確認を取得した既存建物

付加制振による応答制御構造も対象です。

建物の規模・構造	採用している構造計算	認証における条件
高さ60m超 または 免震建物	時刻歴応答解析	対象
60m以下の免震建物	告示免震	【再計算が必要】 時刻歴応答解析を用いた 再計算により 変形等の応答値を求めること
45m超 ～ 60m以下	限界耐力計算 保有水平耐力計算	

Continuous Safety, Continuous Operation.

「逃げなくてすむ」「使い続けられる」都市・建築へ
建築基準法を超える「安心」と「事業継続性(BCP)」を



SCOPE & DISCLAIMER

対象建築物と免責事項

■ 対象

新築建築物または2014年4月以降に建築確認を取得した、既存建築物を対象としています。認証申請時点における設計内容に基づき、耐震性能の評価を行います。

■ 免責事項

本認証は、設計内容における耐震性能を評価するものであり、施工品質は評価の対象外としています。実際の地震時の被害が最小限にとどまることを保証するものではありません。

Contact Information

お問い合わせ・事前相談

一般社団法人 日本建築構造技術者協会
JSCA

耐震性能認証委員会 事務局

URL: www.jsca.or.jp

E-mail: jsca-ninsho@jsca.or.jp